

第116番組審議委員会議事録

日時：令和7年5月21日（水）13時30分～

場所：市民活動センター/コミュニティ f（富士市吉原2丁目10番20号）

1. 委員総数8名

2. 出席人数4名

3. 出席委員の氏名

赤池 英明 副委員長・稲葉美津恵 委員・青木洋一 委員・渡邊朱美 委員

4. 放送事業者出席者名

小沢教司 代表取締役社長

山本茂 放送局長

山本局長：本日はお集りいただき、ありがとうございます。今日は116回目の番組審議となります。皆様よろしくお願い致します。それでは番組審議副委員長の赤池様一言よろしくお願い致します。

赤池副委員長：今日はよろしくお願い致します。今日は委員長の吉野さんが欠席という事で、進行を務めさせていただきます。よろしくお願い致します。

山本局長：赤池様本日はよろしくお願い致します。続いて弊社小沢からお願い致します。

小沢社長：皆様本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。弊社の決算が4月ですが大まかな数字は出ましたが、これから決算処理をして正式な数字が出ます。売上もなかなか上らないうえ、ここにきて開局からのFM送信機（760万）の入れ替えにより、厳しい経営状況となってきましたが、利益的には昨年より大幅に下回ると思いますが、かろうじて 前期（第20期）も利益を計上（16期連続）できたと思います。今年11月3日でラジオエフは開局20周年を迎えますが、なんとか黒字で20周年をめでたく迎えられそうです。これもひとえに、皆様の日頃のご支援、ご協力の賜物と御礼申し上げます。実は今期も又放送設備（耐用年数5年）を新しくする予定です。これは安定的に放送するための欠かせないものですが、放送機器がここ5年～6年で倍以上と高騰しております。これからの我々放送業界は大変な時期を迎えます。

今こそ、安定した収入を図る為、レギュラーCMの獲得に力を入れ、健全経営を目指して社員一同頑張っております。

それでは、今日も忌憚のないご意見をよろしくお願い致します。

山本局長：それではまずは、前回審議をお願いした「Green&Brown 内の食とみどりの連絡聴（帳）」のご報告です。

議事録が弊社ホームページに掲載しているのでご覧いただけたらと思います。

10分コーナーの校正についてご指摘いただきました。コーナーをどう聞いてもらうのか、王道でやるのか、会話を楽しみつつテーマが分かるやり方をするかなど色々あります。長くやると意識せずにやっているという事もあります。人に聴いてもらっているという事を前提に、分かりやすさ、伝え方などを改めて考えさせられました。聴いてもらっているという事を意識した放送に取り組めたらと考え、スタッフともども共有したいと考えております。

さて、今回は4月から始まった Love Station という新番組です。新番組という位置づけですが、これまで同じ時間に放送していた「2D (ツーディー)」という、アニメや漫画に特化した番組の後継番組です。最近「押し活」という言葉もありますが、様々なモノやイベント、人などを応援する流れがあります。この「押し活」に特化してこれまでのアニメや漫画に加え、ホビーやエンタメなどサブカルチャーにも間口を広げようという事で番組名も新たに放送しております。今回お聴きいただくのは「オープニング」と「ラブ・ボイス～エフエリアの中心で愛を叫んだオタク～」です。「ラブ・ボイス」はリスナーが愛してやまないモノや事についてメールを募集し、それを発表するコーナーです。この番組は固定リスナー、オタクカルチャー、サブカルチャーに傾倒している番組リスナーが多いです。番組ディレクターもイベントなどを行い、ラジオエフでも一番リスナーとコミュニケーションをとっている番組かと考えております。それではご検聴の程、よろしくお願い致します。

番組審議

- ・ 審議番組 Love Station 内「オープニング/エフエリアの中心で愛を叫ぶオタク」
(13分程度)
- ・ 放送日時 令和7年5月7日 金曜日 16:30～
- ・ 出演 ナビゲーター：帆志みなみ(第1・3・5週)
さのようこ(第2・4週)
- ・ 番組編成制作方針、説明
- ・ 質疑応答

検聴13分程

山本局長：ご検聴ありがとうございました。それではここからは赤池副委員長にお任せ致します。

赤池副委員長：はい。それでは審議を始めたいと思います。

今回の審議内容は非常に難しいかなと思います。分からない言葉が出てくるといふかイメージが出来なくて、年なのかなと、感じています。ただ、コアな方ならじっくり聞けるのかなと思います。校正としてはポイント制のルールの説明を分かりやすくしてもらえるといいのかなと思います。コーナーの時間はどの時間で放送していますか？

山本局長：夕方の比較的早い時間です。16時から17時の間です。コーナー自体は1週間の押し活を報告するという趣旨だと思います。

赤池副委員長：リスナーさんからしたらとても楽しいコーナーかなと思います。

山本局長：そうですね。楽しみだと思います。

赤池副委員長：知らない情報が入って来る。知らない方が今流行っている事が沢山わかっていいのかなと思います。

した。稲葉さんはいかがですか？

稲葉委員：ちょっとついていけない。理解しづらいと思いました。ですがリスナーさんからのメールを他のリスナーさんが聴き、一緒に楽しんでいると思いました。ただ、私ちょっとついていけないかな、と感じています。ちょっとした説明があればついていけるのかなと思いました。年齢的だったり趣味の違いが理由だとは思いますが。そして、メッセージを読み上げるコーナーとしてとても良いと思います。色々な方たちの色々な行動が見えると思いました。

赤池副委員長：最初に「デジモン」について話していましたが、そういえば昔子供たちとデジモン見たなど。とても懐かしいフレーズでしたね。20年ぶりに聴いて、今も流行っているんだなど、こういうのを聴いて今の価値を知れるなと思いますね。青木さんはいかがですか？

青木委員：さのようこさんはミキサー？その場にいるんですか？

山本局長：交代でミキサー、ディレクターをしています。片方は話さない形式をとっています。私個人的には話しても良いなと思うんですが。

青木委員：オープニングは2人でトークでも良いのかなと思います。メッセージの読み上げは一人でも良いとは思いますが、もし さのようこさん が知っているなら補足を話しても良いと思います。そうすると分かりやすいのかなと思いました。

稲葉委員：好きな人たちはすぐわかると思うのですが、興味がない人はもう一度教えて欲しいと思います。

青木委員：家に帰って調べようかなと思いました。ポイント制もよくわからなかったなので、ここを分かりやすく説明できれば、色々な人の理解が深まるのかと感じます。オープニングがアニメっぽいのにコーナーはとても大人っぽいBGMなのはなぜですか？

山本局長：BGMについてはどういう意図かはわかりませんが、あるんだと思います。

青木委員：聴く限りアニメ、オタクっぽいのかなと思いますがメッセージの読みはアニメ等の話だからそのままでも良いのかな？と思います。

山本局長：BGMはあきらかに意図した曲ですから意味はあるんだと思います。

渡邊委員：5月病にならないように、がんばるぞ！というイメージかな？

山本局長：疲れを癒すイメージかもしれませんね。

青木委員：何か有名なフレーズがいくつかあったのかもしれませんが、ものまねをしたのかな？オープニングの映画の話はなんとなくわかったけど。だいたいがよく分からなかったですが。

渡邊委員：「もちづきもり」もわからなかったですね。

山本局長：そうですね。ただ、そこに通じている方は知っている内容なんだと思います。

青木委員： そうなると、新しい事を知るチャンスだと思います。

赤池副委員長：そういう意味で新しい事が知れる良い番組ですね。

青木委員： 100球くらいもらえば1球くらいわかるのかもしれませんがね。

赤池副委員長：確かに、1球分かれば徐々にそれが何球と捉えられるようになるかもしれませんね。渡邊委員はいかがですか？

渡邊委員：私もよく分からない部分がありました。でも、メッセージの話を聞くと、リスナーさんが1週間活動してきた事、それをメッセージに書いて他のリスナーに聴いてもらう。それがコアなファンが付く理由なんだと思います。「皆聴いて聞いて！行ってきたよ！」、それを聴いた人が「いいな」と色々な人とキャッチボールが来ている番組なのかなと思いました。

赤池副委員長：年齢問わずだれでもメッセージを送っていいんですか？

山本局長：もちろん、どの年齢層がメッセージを送って下さってもよいです。

赤池副委員長：今の番組内容の傾向としては、20～30代が多く投稿しているのかなと思いました。番組の試みとしておもしろいなと思います。

山本局長：テーマ的にアニメなどのオタクカルチャーはラジオと融和性が良いと感じています。こういった番組は他のラジオ含めて全般的に盛り上がりを見せていると考えています。コアなマニア層同士の繋がりが大きいのが理由だと思います。ですので、2D という番組時代から成立しているのかなと思います。オタクカルチャーについて私自身理解が届いていない所もあります。ただ、リスナーの思いを大事に出来ればと考えております。

稲葉委員：私の知り合いでオタクだなとわかる同年代がいるんですが、そういった方は情報を仕入れる事が凄く上手です。年齢関係なく。そういう人たちはこの番組を聴くとすぐにピンとくるのかなと思います。分かる人は年齢問わず理解されるのだと思います。

山本局長：年齢関係なく押し活カルチャーは生きるパワーになっているのかなと思います。経済効果もそうですね。生きる気力を無くしかけた人達がハマっているのを見ると、その人自身エネルギーになる。そうなるとその領域に誰も手を出してはいけないと思ってしまいます。この取り組み自体素晴らしいと思います。

赤池副委員長：大きく言うと生き方が見える番組ですね。

渡邊委員：ペンライト買ったり韓国言ったり、コンサートのライブ配信を見たりすごいパワーなんですよ。カラオケのパーティー部屋でみんなでライブ配信みたりする人もいらっしゃいますしね。

小沢社長：私もそういう人がいて、今韓国のテレビ番組でレギュラーで出演して、韓国で人気の女子高生歌手、東亜樹（17 歳）という日本人歌手がいるんですが、5 年前から後援会に加入し、以来ずっと応援しています。韓国ではファンも多く、私も毎日ユーチューブ動画を見たり、ライブやコンサートを見に行っています。そういう人の気持ちは凄く分かります。

稲葉委員：そうなるこの番組も若者だけでなく、多くの人に聴いてもらえると良いですね。

山本局長：小沢さんの元気な理由が分かりました。押しは見つけないとダメですね。

赤池副委員長：こういった番組、内容はそのままの雰囲気でもう少し広い世代に聴いてもらえたら良いかもしれませんね。今日はここまでにしたいと思います。

山本局長：本日も貴重なご意見ありがとうございました。

小沢社長：次回の開催は7月16日水曜日同じ場所、同じ時間で開催になります。よろしくお願い致します。

議事録の公表：令和7年6月1日 自社ホームページにて公表